

PRESS RELEASE

新国立劇場 2025/2026シーズン 演劇

海外招聘公演

鼻血—The Nosebleed—

日本にルーツを持ち、ニューヨークを拠点に活動する
劇作家・演出家・翻訳家 アヤ・オガワの自伝的作品が日本で初上演！
相いれない父娘。波乱万丈で、ユーモラスなエピソードで描く「失敗」と「赦し」の物語。



ワシントン D.C. 公演 ©DJ Corey Photography



作・演出
アヤ・オガワ



芸術監督
小川絵梨子



2025年11月20日(木)～24日(月・休) 新国立劇場 小劇場

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田亜樹

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

E-mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp

〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1



アメリカへ渡った、ある日本の家族。 「失敗」をテーマに、ほろ苦く優しくユーモアたっぷりに描く “移民”としての経験と、父との複雑な関係。

2022 年上演のフランス・オデオン劇場『ガラスの動物園』、2025 年上演のチェコ・ブルノ国立劇場『母』に続く、海外招聘公演として、米国の劇作家、演出家、パフォーマーであるアヤ・オガワの作・演出による『鼻血 -The Nosebleed-』を上演いたします。

本作は 2017 年より長いディベロップメント期間を経て 21 年秋にニューヨークのジャパン・ソサエティにてワールドプレミアを迎え、22 年夏にはリンカーン・センター・シアター内のクレア・トゥ・シアター、23 年 4 月にはワシントン D.C. のウーリー・マンモス・シアター、そして 24 年 1 月から 2 月にかけて、ミネアポリス、ロサンゼルス、コロンバスの 3 都市を回る米国ツアーを実施。22 年にはオフブロードウェイなどで上演された優れた舞台に与えられるオビー賞を受賞しました。

「失敗」をテーマに生まれたこの作品は、劇作家・演出家、アヤ・オガワの自伝的な戯曲であり、亡くなった父親との複雑な関係を描いています。波乱万丈で不条理かつユーモアに満ちた一連のエピソードを通して、オガワは自分と父親との間に横たわる、文化や世代間のギャップ、そして同時に親として子どもと直面する問題を明らかにしていきます。このユーモアにあふれ、優しく、独創的な作品は、「自分がやったこと、やらなかったことで間違っていたこと、後悔していること」がどのように受け継がれ、(次の世代に)伝わっていくのか、そして赦しを得るために何が必要なのかを問いかけていきます。

お客様がいらっしゃるからこそ完成する演出満載！『鼻血—The Nosebleed—』の魅力

【注目ポイント①】本編に入る前にキャストや観客が「失敗談」をシェア—ライブ感満載のオープニング！

本作のオープニングは、非常にユニーク。キャストが登場し、次々に自身の「失敗談」のシェアをしていきます。これは、アヤ・オガワいわく「作品に入るための“儀式”のようなもの」。

そして、それはキャストにとどまらず、観客にも！挙手制で選ばれた観客の代表者に「失敗談」をシェアしていただきます。

米国上演時は、観客の話がなかなか終わらないという珍事件もあったそう。

果たして、新国立劇場上演時はどうなるか！？シェアしていただく「失敗談」はもちろん日本語で OK！蓋を開けてみないとわからない、ドキドキのライブ感をお楽しみください。



ワシントン D.C. 公演 ©DJ Corey Photography

【注目ポイント②】観客とコミュニケーションをとるシーンがたくさん！

劇中、右の写真のように「この中で〇〇な人、手を挙げて」とキャストからお客様に質問が投げかけられるシーンも度々あります。

キャストと観客の相互コミュニケーションを重ね、劇場はどんどんあたたかく、アットホームな空間へ。舞台上で起こる出来事が、どんどんとまるで自分のことのように感じられていきます。



ワシントン D.C. 公演 ©DJ Corey Photography

【注目ポイント③】お客様がいらっしゃるからこそ完成する、クライマックスの「儀式」

クライマックスに出てくる、葬儀のシーン。お骨に見立てているのは、シュレッダーされた紙。挙手制で選ばれた 8 名のお客様に、舞台上にあがっていただき、「お骨上げ」をしていただく場面も。

シュレッダーされた紙も実はお客様が関わる重要アイテムなのですが、それは観てのお楽しみ。

観客の存在があってこそ、成立する美しく、あたたかなシーン。

あなたも出演者のひとりになりませんか？



ロサンゼルス公演 ©Angel Origgi

あらすじ

作家のアヤに紹介された4人の俳優がそれぞれの「失敗談」を語る。やがて彼らはそれぞれ「アヤ」を演じながら観客に問い始める。

「『バッチェラー』という恋愛リアリティ番組を見たことがありますか？」

番組で描かれる男性とその父親の難しい関係。その関係にまつわる「失敗」がアヤ自身の親として、そして子どもとしての失敗を思い出させる。面白おかしく、ほろ苦い失敗の数々。しかし、一番大きな失敗は、父親が亡くなった時にお葬式もあげなかったこと。

次々に観客へ投げかけられる問いを通して紐解かれていくのはアヤと、無口で冷たい昭和の父親との相いれなかった親子関係。亡くなってしまった父との関係はこのまま「失敗」としてアヤの中に残り続けるだけなのか…。



ロサンゼルス公演 ©Angel Origgi



ワシントン D.C.公演 ©DJ Corey Photography

スタッフプロフィール



©Darren Cox

【作・演出・出演】アヤ・オガワ Aya OGAWA ——アヤ0/ケンヤ/お父さん

東京生まれ。現在は米国・ブルックリンを拠点に活動する劇作家、演出家、翻訳家。多様な視点や世界各地の形式・影響を取り入れ、アメリカの伝統的なアイデンティティや美意識に挑戦すると同時に、アメリカ現代演劇の国際化やアジアとアメリカのアーティスト交流を促進している。代表作には本作『鼻血-The Nosebleed-』のほか、『Journey to the Ocean』(Foundry Theater)、『oph3lia』(HERE Arts Center)などがある。また、ハルナ・リー作でオビー賞受賞作でもある『Suicide Forest』の演出も担当。翻訳家としても、日本の現代戯曲を英訳する活動を行っており、岡田利規(チェルフィッチュ主宰)などの作品を手掛けている。日本劇作家協会の新作シリーズ英訳日本語劇選考委員。2023年にはヘレン・メリル戯曲賞、リンカーン・センター・シアターからは2022-2023年 Cullman 賞など、多くの賞や助成を受ける。また、New Dramatists のレジデント劇作家であり、MacDowell フェローでもある。

作・演出・出演 アヤ・オガワからのメッセージ

This play is a very intimate story from me, someone who straddles different cultures and communities. I'm only able to share this story through the bodies of my most trusted collaborators. Bringing this play to Japan might be one of the scariest things I have done as an artist. How will Japanese audiences receive this story? I hope that the care this company puts into the play will deliver its essence to your heart.

この作品は、異なる文化やコミュニティの狭間に立つ私自身から生まれたとても内面的な物語です。信頼できる仲間たちの身体を通してこそ、この物語を伝えられます。この作品を日本に持ってくるのは、アーティストとして今までで一番怖い挑戦かもしれません。日本の皆さんがこの物語をどう受け止めるのか？このカンパニーが作品に込めた思いによって、この作品のエッセンスがあなたの心にも届くことを願います。

出演者プロフィール



ドレイ・キャンベル Drae CAMPBELL ————— アヤ4 他

あらゆるメディアで活躍する俳優、コメディアン、ストーリーテラー。2023年『鼻血—The Nosebleed—』の演技で、ルシール・ローテル賞にノミネート。初舞台は5歳で、ナイトクラブでパンクバンドのオープニングアクトを務める。9歳でサンフランシスコのプロダクションが制作した『The Member Of The Wedding』のジョン・ヘンリー役に抜擢され、演劇と、ジェンダーにとらわれない生き方に目覚める。フィラデルフィア芸術大学でBFA(演劇)を取得。これまでの出演に舞台『ラ・カージュ・オ・フオール』『Jesus Hopped The 'A' Train』『Only You Can Prevent Wildfires』『Non-Consensual Relationships with Ghosts』『My Old Man』『oph3lia』、テレビドラマ『ニュー・アムステルダム 医師たちのカルテ』『BULL / ブル 法廷を操る男』『Dinette』など。

11年間にわたり、クィアについて語る番組『TELL』の司会を務め、ポッドキャスト版はシルバー・シグナル賞を受賞している。

ドレイ・キャンベルからのメッセージ

Every time I perform in *The Nosebleed*, I learn a little more about myself and, I think, about humanity, vulnerability and the power of failure. I love presenting *The Nosebleed* as a gift to each new audience. I'm especially excited to see how people in Tokyo will respond!

『鼻血—The Nosebleed—』を演じるたびに、自分のことや、人間らしさ、弱さ、そして「失敗」の力について新しい発見があります。私はこの作品を、毎回新しいお客様へギフトとしてお届けするのが大好きです。東京の皆さんがどんなふうに反応してくださるのか、とても楽しみにしています！



©Carlos Montano

アシル・リー Ashil LEE ————— アヤ1 他

ニューヨークを拠点に活動する俳優、劇作家、演出家、性教育者。韓国系アメリカ人のトランス・ノンバイナリーで、移民の親を持ち、愛犬ハクスリーの親友でもある。2023年、『鼻血—The Nosebleed—』の演技でルシール・ローテル賞ノミネート。これまでの主な出演『Akira Kurosawa Explains His Movies and Yogurt (with Live and Active Cultures!)』『OriGen Story』『Dogville』などがある。劇作では『Me No Know Korean』『Rooting for You!』『Phantom Dick』などがあり、演出作品に『Coach Coach, US Drag』『The Big Pick』『Manifest Destiny』などがある。ニューヨーク大学ティッシュ芸術学部卒(BFA : アクティング)、副専攻は青少年メンタルヘルス。

アシル・リーからのメッセージ

Performing *The Nosebleed* always feels so special because we get the chance to connect directly with (and even move alongside) the audience through it. When I joined the ensemble, it felt like being welcomed into a family and a legacy all at once. My hope is that people coming to the show can feel that sense of welcoming as well.

『鼻血—The Nosebleed—』を上演するたびに、いつも特別な気持ちになります。観客の皆さんと直接つながることが（そして一緒に動いてみることも）できるからです。このカンパニーに入ったときに、家族にそしてその歴史に迎え入れられたような温かさを感じました。観に来てくださる皆さんにも、その温かさを受け取ってもらえたらいいと思います。



クリス・マンリー Chris MANLEY

白人の男

アメリカの作家、パフォーマー、道化師。自身が生み出したキャラクター「ボタンズ」でよく知られる。2023 年『鼻血 -The Nosebleed-』の演技でルシール・ローテル賞にノミネートされ、「シルク・ドゥ・ソレイユ」の舞台にも出演している。世界の道化師が掲載される書籍『Le petit Auguste alphabétique』に、アメリカを代表するお笑いコンビ、アボットとコステロとともに名を連ねる。これまでリンカーン・センター、Ars Nova, The Montreal Just for Laughs Festival, the Upright Citizens Brigade Theater など公演。米国全国放送の CM や映画賞受賞作品に出演している。

クリス・マンリーからのメッセージ

I have loved being a part of this show. I have performed it over 50 times and am still moved by each performance. Every time I watch it, I am grateful for the time I have with the loved ones in my life. I forget the trivial annoyances of life and am reminded of what is important in my life. This play makes me laugh, cry and feel full. I'd love for you to see it and fill yourself up.

この作品に関わられて本当に幸せです。これまでに 50 回以上演じていますが、毎回心を動かされます。観るたびに、大切な人たちと過ごす時間のありがたさを感じ、日々の些細な煩わしさを忘れて自分の人生にとって何が大切かを思い出させてくれます。この『鼻血—The Nosebleed—』は、笑って、泣いて、心がいっぱいになる作品です。ぜひ皆さんにも観ていただいて、その気持ちを感じてもらえたら嬉しいです。



©Aya Ogawa

塚田さおり Saori TSUKADA

アヤ 3 他

アメリカで生まれ、日本で育つ。現在はニューヨークを拠点に活動。早稲田大学在学中に長塚圭史作品のポスターデザインを手掛け、その後、振付や演技の分野でも活動の幅を広げる。ニューヨーク・タイムズ紙で「驚くほど正確なパフォーマンス」と評され、これまでカーネギーホール、リンカーン・センターなどの舞台に立つ。振付家の中馬芳子、キャサリン・ガラツソ、作曲家のジョー・ディーブス、ショーン・アイアズ & ローレン・ベティらとコラボレーションしてきた。そのほかの活動にニッキー・アピーノとの共作『クラブ・ダイヤモンド』などがあり、近年の主な出演に細川俊夫作曲、オペラ『班女』、カフカ作『変身』(フィリップ・グラス音楽、アヤ・オガワ演出)のコンサート・リーディングなどがある。アヤ・オガワとの創作活動は 20 年以上になる。

塚田さおりからのメッセージ

ほこりまみれの疑問やガラクタになり果てた記憶の数々を一斉在庫整理。そしたら何とも眩しい光が差してきた。というイメージでしょうか。当初からおつき合いのあるこの作品。7 年経ってもまだ泣かされます。日本公演の実現に鳥肌と武者震い、深呼吸の繰り返しです。



カイリー・Y・ターナー KAILI Y. TURNER

アヤ 2 他

黒人、先住民(ナティック・ニブマク族)のコメディアン、ライター、プロデューサー、人形遣い、女優兼監督。これまでの主な出演『Fires in the Mirror』『SPACE』『Second City』『103 Within the Veil』、HBO 最優秀短編映画賞受賞作品『The Cycle』などがある。ネイティブ・アメリカン TV ライターズラボ、および、ABC/ディズニー・ネイティブ・アメリカン・パイロットプログラムのフェローである。『Best Friend Parody』(All the Laughs 最優秀コメディ・ミュージカル・パロディ賞受賞)、『Maybe It's Melanin』(ABFF Lit Laughs Festival 3 位)、『Indian Country』(ユージン・オニール・プライアイト・カンファレンス セミファイナリスト)など、受賞作も多い。「ひとさじの薬(笑い)で、メッセージはずっと喉を通る」という信念のもと、コメディ作品を創作し続けている。

カイリー・Y・ターナーからのメッセージ

Being part of *The Nosebleed* company has been in my top 5 of favorite life experiences of all time! The cast has become more family than co-workers and although the story is specific and personal to Aya, I can very much relate and resonate with so many moments!

『鼻血—The Nosebleed—』のメンバーでいられることは、私の人生の中で 5 本の指に入る素敵な経験です！キャストはもはや同僚というより、家族のような存在になっています。この物語はアヤ個人のとても限定的な物語ですが、私自身、いくつかの場面に強く共感し共鳴しています。

公演概要

海外招聘公演『鼻血—The Nosebleed—』

＜英語上演／日本語字幕付＞

【作・演出】アヤ・オガワ

【美術・衣裳】鄭 智安

【照明】姚 愛淑

【音響】片山 萌

【舞台監督/プロダクションマネージャー】黄 懷萱

【カンパニーマネージャー/プロデューサー】ジョン・デルガーディオ

【字幕翻訳】広田敦郎

【舞台監督】川除 学

【技術監督】友光一夫

【芸術監督】小川絵梨子

【主催】新国立劇場

【キャスト】ドレイ・キャンベル、アシル・リー、クリス・マンリー、アヤ・オガワ、塚田さおり、カイリー・Y・ターナー

【公演日程／会場】

2025年11月20日(木)～24日(月・休) 新国立劇場 小劇場

【料金(税込)】

A席 7,700円／B席 3,300円／Z席(当日)1,650円

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

* **Z席1,650円** Z席は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。

* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について**50%割引**にて販売。要学生証。電話予約可。

* **各種割引** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(小中学生20%)、アトレ会員割引(5～10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【新国立シアタートーク】

日時: 11月23日(日・祝)終演後

会場: 新国立劇場 小劇場

出演: アヤ・オガワ、広田敦郎、塚田さおり

司会: 中井美穂

入場方法: 本公演チケット(いずれの日程でも可)をご提示ください。